|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **学校経営推進費　事業計画書** | | | |
| **１．事業計画の概要** | | | |
| **学校名** | | | 大阪府立西成高等学校 |
| **取り組む課題** | | | Ｄ 生徒の自立を支える教育の充実 |
| **評価指標** | | | ・進級卒業率の向上　・わかりやすい授業との評価向上　　・学校満足度の維持向上  ・不登校の減少 |
| **計画名** | | | 『勉強嫌いが学校好きになる学校づくり―にしなり学LAB』事業 |
| **２．事業計画の具体的内容** | | | |
| **学校経営計画の中期的目標** | | | ２.　Competency（コンピテンシー）を育てる  「Less is More」＝知識量は少ないとしても、より豊かな学びにつながる  ―小中学校時代の学習の躓きを取り戻すためにも、厳選された学習内容が重要である。各教科における知識・理解を厳選し将来性との最適地点を探求する。  〇「N-Time」（１年次ステップ・スクールとしての必履修科目）・「にしなり学」設定科目群（２・３年次ステップ・スクール必履修科目）を通じて、学校文化ともなるオンリーワンの学びを実践する。  〇生徒の「学習力」向上のため、学習に対する自己評価を積極的に活用したアセスメントをおこなう。  〇多面的な評価方法の開発で生徒の学習意欲を伸ばす。  〇リテラシーの育成に留意し、易しい日本語による授業を行う。  〇また、多様なルーツの生徒への学習指導として、思考言語に留意する。  〇地域連携本部を中心に校内外の連携により、生徒の職業観・勤労観の自覚を育てる。  〇１年次のアルバイト支援、２年次のインターンシップを通して、段階的・実践的な職業教育を実施する。  〇１年次の「N-TIME」において、SCの協力のもとソーシャルスキル・トレーニングを取り入れる。  〇定着支援にも重点をおく。  〇R4学校経営推進費事業「生徒を勇気づけるキャリアステージ計画」（地域協働キャリアセンター構想）を活用して整備を進めた「地域協働キャリアセンター」の取組みにより、地域と連携し、生徒の社会参加を促進する。  ４.「地域連携」「地域協働」を育む  校務運営委員会を「地域連携本部」と位置づけ、あらゆる学校業務を地域連携として実行する。西成教育サポート連絡会を中心に近隣の義務制学校に指導と支援の方法を学び、学習保障を行う。  〇「産業社会と人間」「N-TIME」「総合的な探究の時間＝チャレンジ」の取組みを「にしなり学びの発表会」（仮称）で報告する。  〇地域連携本部のもと、インターンシップなど生徒の校外活動を積極的に支援する。  〇「地域まるごとエンパワー」をめざし、令和６年度スタートのオンリーワンの学び「にしなり学」指定科目群を実現する。 |
| **事業目標** | | | ①地域連携・地域協働の推進により、生徒の学びの動機づけを行う。それを通じて学びの主体である生徒の自信を回復する。  ②西成高校におけるOnly Oneの学びにふさわしいアセスメントの充実を図る（アセスメントLABによるあらゆる教育活動や福祉的側面へのアセスメントの開発を行う）。  ※アセスメントLABとは校内におけるアセスメントにかかわる研究組織  ③校内10教科による「にしなり学」設定科目群の学びを実現することで、生徒にも地域にも自信と活力を生み出す。 |
| **取組みの概要** | **整備する**  **設備・物品** | | ①「靴づくり工房」の電源工事（動力電源配線一式）  ②にしなり学LAB整備（教材保管・作業・展示・ミーティング等に活用）・整理棚・作業ミーティング兼用机  ③eスポーツコース新設（ゲーム機材、コントローラー、ソフト一式、移動式電子黒板）  ④にしなり学（スポーツコース・和太鼓）長胴太鼓一式、桴  ⑤ネットワーク型カラーインクジェットプリンター（A3対応） |
| **取組内容** | **前年度** | 〇NAC（西成高一歩前委員会）でカリキュラムの策定研究  〇NSC（西成高校靴づくり部）を立ち上げ、靴作りの学びを先行実施（西成製靴塾外部施設）  〇「言葉と文化」受講の外国につながる生徒による小学校での講演（スペイン語話者）  〇50周年記念式典で「西成高校靴づくり部」が登壇し、取組みと作品（作成した靴）を披露 |
| **初年度** | 〇先進校視察（東京都および福岡県など不登校生徒への支援に関する先進的取組みを視察）。  〇NAC（西成高一歩前委員会）及び地域連携本部において、新校のカリキュラムを実際に運用するための研修及び実験（オープンスクールでの体験授業または出前授業として実施）する。  〇アセスメントLABを立ち上げ学校教育にアセスメントをどのように接続するのかを研修研究する。（学識や専門人材の参加予定）また、日本語指導のメソッドを活用し、ステップ・スクール１期生の「リテラシーのチカラ」を測定し、教育活動全般の基盤について研究方向づけする。  〇従来の「エンパワ発表会」を改編し「One　STEP　Forward　フェスタ」（仮称）を年度末に実現する。 |
| **２年め** | 〇新カリキュラム　新コースでの専門教科「eスポーツ理論」「eスポーツ実践」をはじめ、３系列６コースの取組みを「One　STEP　Forward　フェスタ」（仮称）で発表する。  〇にしなり学選択科目を初めて実施する。取組みを記録するとともに、ネットを通じて広く発信するとともに、上記フェスタで発表する。  〇２年生でエンジョイタイム（1H/WEEK）を実施する。従来家庭や地域で伝承されてきた文化（遊びや手技など）を楽しむ。  〇アセスメントLABで「リテラシーのチカラ」を分析し、教材・教案を開発する。 |
| **３年め** | 〇第１回にしなり学シンポジウムを開催（生徒発表と教員の取組報告、学識協力者による講演またはパネルトーク）し、成果を公開広報する。  〇eスポーツコース主催「にしなり小中学生eスポーツフェスタ」（仮称）を開催する（広報・運営すべてを生徒が実施）。  〇アセスメントLABについて、「リテラシーのチカラ」（仮称）　の取組みを報告冊子にまとめて発行する。 |
| **取組みの**  **主担・実施者** | | ・地域連携本部事務局（首席を事務局長とする運営委員会と同じメンバー、R6年度発足済み）  ・NAC（西成高校一歩前委員会：教頭を委員長とし、教務学習・生徒指導・広報企画・生徒会保健の４課長、こども人権室・生徒生活支援室・進路保障室の３室長を基板に推薦委員で構成）  ・アセスメントLAB（校長を委員長に教務学習課員及び参加希望者で構成　現在SC１名、実習教諭１名、教諭１名） |
| **成果の検証方法と評価指標** | | **初年度** | ■１年生から２年生への進級率（進級者/入学者）：90％　※R5　84.5％  ■学校満足度：90％　※R5　90.1％  ■授業が分かりやすい肯定感：90％　※R5　89.1％  ■卒業率：70%　※R5 68.6％ |
| **２年め** | ■１年生から２年生への進級率（進級者/入学者）：92％  ■学校満足度：92％  ■授業が分かりやすい肯定感：92％  ■卒業率：75% |
| **３年め** | ■１年生から２年生への進級率（進級者/入学者）：95％  ■学校満足度：95％  ■授業が分かりやすい肯定感：95％  ■卒業率：80% |